



3月15日号に引き続き、今回も(株)アルマック代表取締役の神田昌典氏のロングインタビューをお届けします。「経営者にとっての真の幸せとは何か」をテーマに、ご自身の経験を交えながら語っていただきました――。

経営者にとって、 本当の幸せとは――

山口 人間は誰も「幸せ感」が異なると思います。では、「経営者にとっての幸せ」は何だと考えますか。

神田 まず、今の30代、40代の経営者の価値観は何かというと、「アメリカ的な成功」でしょう。分かりやすく言うと、40代半ばまでに、一生遊んで暮らせるだけのお金を稼いで、セミリタイアするという価値観です。

しかし、それが「幸せではなかった」「幻想だった」と次第に多くの人たちが気づく時代に、これから入るでしょう。今後は二極化がさらに進行しますが、上層部にいた人も転落したり、不幸になることが認知させられる現象も起こるはず。すると、次第に「あれ? 俺って格好悪いじゃん? 今まで「家用ジエ

ット機」に乗って格好いいと思っていた俺たちって何だったんだ……」と思わざるを得ない状況にもなる。
山口 それでは経営者にとって、真

の幸せとは何でしょうか。

神田 個人差はありますが「お金ではないよね」というのが、だんだんと分かってくる時代になるでしょう。

ただ、「お金ではないよね」と言いつつ、いながらも、財政的な恐れの中で、仕事をしていくのは辛いです。

また、「お金はいらぬ」と自分だけ割り切っても、経営者としての責任があるわけで、社員のために稼ぐ義務もある。だから、「物質的・金銭的豊かさ」から「精神的豊かさ」へと変化していくとしても、一気に

移行してもよいかといえば、それも間違いないでしょう。先見性のある経営者は、時代が進むのと同じ速度で軸足を移すべきです。確かに、極端な経営方針の転換を図ることはラクですが、それで「天狗」になったり「仙人」になったりしている人は、単なる変人にしか見られません。

あの堀江貴文氏も、まさか自分が犯罪を犯すなんて考えなかったはずですよ。気づいたときには、足を踏み外していたのです。能力がある経営者であればあるほど起こり得ること、

「会社とは理念が大切だ」と謳っている人も、過ちを犯すのです。
山口 皆、ホリエモンの要素はあるということですね。
神田 はい。このような中で、経営

会社とは、自分自身を成長させる「学びの場」です

者は「自分自身のパーソナリティに沿ったビジネスモデルをつくる」と経営が安定するでしょう。その一つとして、会社とは経営者や社員が成長するための「学びの場」という考え方があります。

昔は、日本でも「会社とは社会に出てからの学校のようなもの。利益を求めたのも大切だが、お客さんを喜ばせたり、社会貢献をすることを通じて、自分自身を成長させる場である」との考えはあった。

社員の立場からすると、仕事の中で「自分自身とはどんな人間なのだろうか」と自問しながら人と関わり、ときには衝突もする。そして、自分が間違った方向に進んでいるとき、同僚や上司に指摘されることで、本来の自分の姿が見えてくる……。会社とは、そういうものなんです。

ところが、そう考えると経営者の場合も、自分のパーソナリティに合ったモデルを築くまでは、利益は上がらない。もちろん、一時的には上がったとしても、長続きしない。

だから、アメリカ的な経営はキャッシュフローを上げて、株主利益を最大化することが会社の目的だというのです。このモデル一辺倒になっ

経営者にとつての幸せとは、
お金儲けだけではない

自分のパーソナリティに沿ったビジネスモデルをつくらう

聞き手／山口哲史（株）プロアクティブ代表

（株）アルマック代表取締役

神田昌典

先見
トップ・インタビュー
TOP
先見
interview

Photo/三田真哉